

防災マニュアル

(2019年4月 発行)



(携帯版)

緊急パーソナルメモ

氏名 _____

学籍番号 _____

学科 _____

緊急連絡先 _____

住所 _____

本人携帯番号 _____

血液型 _____

持病 あり 常用薬 あり
 なし なし

アレルギー あり ()
 なし ()

自宅近くの避難場所 _____

家族との待ち合わせ場所
家族と共有しておきましょう

※記入は油性のペンを使用してください。

日頃の準備

大地震の発生を防ぐことはできなくても、適切な準備を行うことで被害を軽減することができます。どんな備えが必要か考えておきましょう。

- 避難場所の確認
(大学付近および自宅周辺等)
- 家族との連絡方法および待ち合わせ場所の確認
- 災害伝言サービスの確認と登録
(メール宛先等の事前登録が必要)
- 帰宅ルートおよび所要時間の確認
(災害時徒歩約2.5km/h)
- 緊急時メモの作成・記入
- 具体的な情報収集手段および緊急避難場所等の確認
(大学および通学途中)
- 転倒防止対策や緊急時アイテムの確認
- 大学および友人等への連絡方法の確認およびリスト整備

日頃から準備・携帯しておく便利な物

- 現金 (小銭も)
- 健康保険証
- タオル・ばんそうこう・包帯
- 手回し充電ラジオ・ライト
- ティッシュ・ウエットティッシュ
- 非常用保温アルミシート
- チョコレート・あめなど
- 常備薬
- 学生証 (免許証なども)
- アドレス帳
(家族、友人の連絡先を記入)
- 雨具 (カッパなど)
- 乾電池式携帯充電器
- ポリエチレン製ごみ袋
- 油性マジックペン
- 生理用品

その他非常時に必要なアイテム

- 貯金通帳
- 常備薬とその処方箋
- 運動靴
- 卓上コンロ
- ひも・ロープ
- 予備電池
- スリッパ
- 使い捨てカイロ
- 汗拭きシート
- 印鑑
- 上着・下着・靴下
- リュック
- 懐中電灯
- ろうそく
- 缶切り・栓抜き
- 洗面用具
- 非常用食料・水

memo

火災が発生したら

- 火災報知機がなったら
その建物および隣接する建物にいる人、または目視で危険と判断される場合は、教職員の指示のもと避難してください。
- 火災発生を発見したら
知らせ
大声で「火事」を知らせる・火災報知機を鳴らす！
- 初期消火
天井に火が燃え移ったら初期消火はできません。すぐに避難してください。
- 避難
煙が発生したら、ハンカチ等を口と鼻にあて姿勢を低くして避難してください。

避難後は

- 周りの友人の無事を確認
逃げ遅れた人・行方不明な人がいたら、近くの教職員または消防隊員にすぐに知らせる。
- 教職員の指示に従い、勝手な行動はとらない。

地震が発生したら

- 大きな揺れを感じたら
危険物から離れる
窓や棚、ガラスなど割れたり中のものが飛び出しそうなものから離れる。
- 落下物から頭と手足を守る
机の下にもぐる、バッグなどで頭を覆うなどして、頭と手足を守る。落下物がない場所にいる場合は、その場で座り込む。
- 出口を確保する
ドア付近にいる人は、ドアを開け、出口を確保する。(余裕がある場合)
- 揺れがおさまるのを待つ
安全を確保して、揺れがおさまるのを待つ。
- 揺れがおさまったら
冷静に、落ち着く
余震の可能性もあるので、あわてずしばらく様子を見る。
- 周囲の状況を確認
周囲のものが倒れたり、落下してくる恐れがない場合は、その場で待つ。危険と判断した場合は、安全なところへ移動する。
- 負傷者の救護
負傷者がいる場合は自分の身が安全な範囲で周囲の協力を得ながら応急手当をし、教職員に連絡する。

避難する時の注意点

- 「おかしも」を守る
「おさない、かけない、しゃべらない、もどらない」を守り、教職員や非常放送の指示に従って落ち着いて避難。身の回りのものは身につけるが、避難に支障が出る大きな荷物は置いていく。
- 火災が発生している場合
煙を吸わないよう、タオルなどで口を覆う。
- 階段で移動
エレベーターは使用せず、階段で移動する。
- 津波警報発令時の対応について
決して戻らず、高いところ(建物の3階以上)へ避難する。

帰宅可能な場合

- 帰宅可能な場合は、必ず大学に報告した上で帰宅する。
- 帰宅時は、できる限り同じ方向の2人以上で行動する。

学内にとどまる場合

- 交通機関が停止する、帰宅が深夜になるなど、帰宅困難となった場合は、学内に滞在する。
- 建物内への移動、宿泊場所などについては教職員の指示に従うこと。
- 大学には災害用品が備蓄してある。
- 家族との安否確認は、裏面の伝言ダイヤルサービス、伝言板サービスを利用して自分自身で行うこと。

大学からの安否確認

災害発生時、大学より皆さんのユニバに安否確認の回答依頼をします。安全を確保後、スマートフォンもしくはパソコンから速やかに回答をしてください。

安否確認回答

回答期限: 2018/03/13(火) 14:30
発出先: 学生支援センター

地震被害に伴う安否状況確認です

先ほど発生した地震に関する安否確認メールです。名目、安否状況の登録をお願いします。

怪我はありませんか?

無事
軽傷
重傷

ご家族で怪我をされた方はいませんか?

選択してください

何か連絡事項がありましたら記入してください。

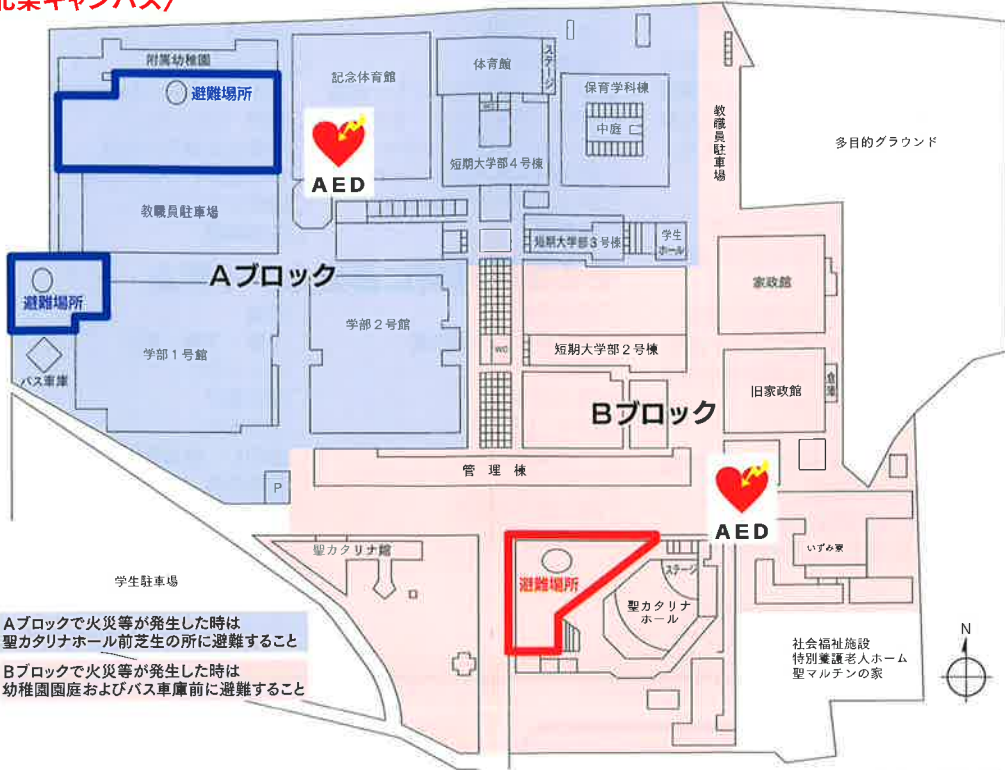
ご協力ありがとうございました。

一時保留する 回答する

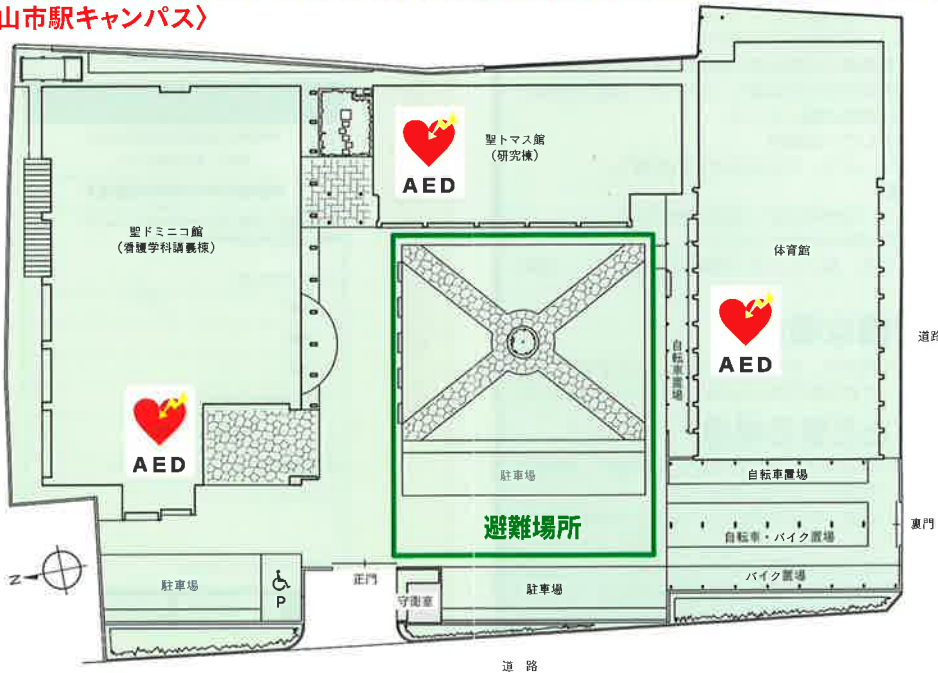
(スマートフォン版のサンプル画面)

学内避難マップ

〈北条キャンパス〉



〈松山市駅キャンパス〉



家族への連絡方法

事前の登録が必要です！（事前にテストをしてください）

携帯各社の災害伝言板サービス

大規模災害時に携帯電話から安否確認（安否情報の登録）ができる災害用伝言板サービス。

あらかじめ指定したご家族や知人に対して、災害用伝言板に登録されたことをメールでお知らせする機能も提供される。また、インターネットからも安否情報の確認が可能。

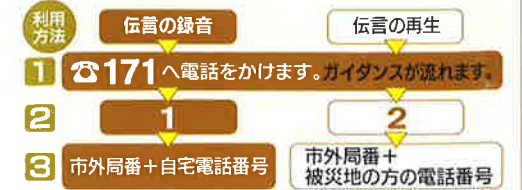
各社のQRコードはこちら



- NTTドコモ <http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>
- au <http://dengon.ezweb.ne.jp/>
- ソフトバンク <http://dengon.softbank.ne.jp/>

NTT災害伝言ダイヤルサービス

地震など大災害発生時に、安否確認などの電話が爆発的に増加し、つながりにくい状況になった場合、提供されるサービス。



事前に記入しておきましょう。

市外局番 電話番号

- 被災地の方も、被災地以外の方も利用方法は同じです。
- 利用可能な端末/NTTの一般電話、公衆電話、携帯電話
- 蓄積伝言数/1電話番号あたり1~10伝言
- 録音時間/1伝言 30秒以内
- 伝言保存期間/2日間（48時間*自動消去）

傷病者救助法

意識が無い、心肺停止の場合

1 周囲の安全を確認します。意識が無ければ応援を呼び、119番通報とAED手配を依頼します。

119番通報

AED手配



2 呼吸を確認します。

3 正常な呼吸が無ければ胸骨圧迫による心臓マッサージをただちに行います。
強く：傷病者の胸が少くとも5cm沈むほど強く圧迫
速く：1分間に少なくとも100回のテンポで圧迫
絶え間なく：中断を最小限に絶え間なく繰り返し圧迫



4 人工呼吸ができる場合（窒息・溺水時以外は、必ずしも実施する必要はない）まずは気道確保をして【人工呼吸2回→胸骨圧迫30回】を繰り返します。



5 AEDが到着したら、音声ガイドに従い適宜除細動を行います。協力者とともに処置を進めます。



6 意識が無いが呼吸がしっかりしていれば回復体位にします。保温にも留意しましょう。

傷、出血の処置（直接圧迫法）

清潔なタオル・ハンカチなどを出血部分に当て強く圧迫します。出血部位は高い位置に保持します。血液には直接触れないよう、ビニール袋などを利用しましょう。

傷口が汚れていたら

水道水などでよく洗い流します。

骨折がある

骨折部位を動かさないように添え木を当て安静にします。
●雑誌、ダンボールなどを利用します。
●傷や骨折の部位は（できれば）高い位置に保持し、安静を保ちます。

火傷がある

水道水で30分位冷やしたら清潔な布を当て安静にします。水疱は破らないように注意します。